

雲林生曉陰 露葉表秋淨 天清鶴能高 風急蟬更競 果落忽疑雨 交柯転成暝 龍影翻硯池  
翠羽窺水鏡 幽人此優游 読書了深性

【読み】

雲林 曉陰（ぎょういん）を生じ、露葉（ろよう）秋淨（しゅうせい）を表す。天清らかにして鶴能（よ）く高し、風急にして蟬更（さら）に競う。果（このみ）落ちて忽（たちま）ち雨を疑い、交柯（こうか）転じて暝（くら）きを成す。龍影（りゅうえい）硯池（けんち）に翻（ひる）がえり、翠羽（すいう）水鏡（すいきよう）を窺（うかが）う。幽人（ゆうじん）此（ここ）に優游（ゆうゆう）し、書を読みて深性（しんせい）を了（さと）る。

【意味】

雲に覆われた森が夜明けの薄暗さを生み、露に濡れた葉が秋の清らかさを示している。空が澄み渡る中、鶴は高く飛び、風が強まると蟬たちはさらに競って鳴く。果実が落ちる音は、一瞬雨が降ったかと錯覚させ、枝が交差する影が次第に夕闇を深める。龍の影が硯（すずり）の池を揺らし、翠色の羽を持つ鳥が水鏡をのぞき込んでいる。世俗を避けてひっそり暮らす人はここで心穏やかに時を過ごし、書物を読んで深い境地に達するのだ。

\* 曉陰…朝の薄暗さ    \* 秋淨…秋の清々しさ    \* 交柯…枝が茂って交差するさま    \* 幽人…世俗をさけてひっそり暮らす人。隠者。  
\* 水鏡…水面に物の影が映って見えること。みずかがみ。    \* 優游…ゆったりとして心のままに楽しむこと

【出典】 寄題湖口方氏木齋（廿立・元） 湖口の方氏の木齋に寄題す

湖口にある方氏の木齋（書齋）に寄せて詩を贈る